

海燕社

の小さな

映画会 2021

9/11 (土) 18:30 ~ 沖縄県立博物館 美術館 (3F) 講堂

17:30 受付 18:00 開場 料金 1,500円 ※完全予約制

予約：海燕社 (かいえんしゃ) ☎ 098-850-8485 / ✉ mail@kaiensha.jp

ARTS for the future!

よみがえる水の気配。  
あゝ身面刀自。  
おれが見たのはただ一度。  
しかあれからずっと  
お前を思い続けていたぞ。  
このおれは、一体誰なのだ。  
おれは、一体何処にいるのだ。

# 1921年(大正10年) 初めての沖縄民俗探訪から100年 特集 折口信夫の世界

※アンコール上映

「海燕社の小さな映画会」で上映した中からもう一度観たい作品を調査(2019年) 上位7作品の一つである本作(2016年8月27日上映)をアンコール上映致します



人形アニメーション映画 (70分)

# 『死者の書』

原作：折口 信夫 / 監督・脚本：川本 喜八郎 / 2005年製作 / 桜映画社

文部科学省選定/文化庁メディア芸術祭優秀賞/中国国際アニメーション・デジタルアートフェスティバルグランプリ  
ザグレブ国際アニメーション映画祭審査員特別栄誉賞、他

## 【時代背景】

『死者の書』の時代設定は、奈良時代。平城の都の文化の爛熟する一方で、疫病や疫災が流行し、天皇の病氣平癒を祈願して東大寺の大仏が建立され開眼供養の行われた時代。富と権力を取り巻く権力者達の争いが繰り返されていた。万物に霊が宿ると信じられていた時、大陸からもたらされた仏教がようやく社会に浸透しはじめた時代である。

## 【あらすじ】

時は奈良。大和の文化と大陸から渡来した華やかな文化がせめぎ合い溶け合った時代。平城京では大伴家持や恵美押勝らが、やまごころや漢土

(もろこし)のオ(ぎえ)について論じ合っている。大 鎮めていく……。

貴族である藤原南家(ふじわらなんけ)の郎女(いらつめ)は、当時の最も新しい文化 — 仏教に目覚め称讃浄土経の千部写経を始めていた。彼岸中日の夕暮れ、郎女は荘厳な佛人(おもかげびと)が二上山の上にきらめき浮かび上がるのを見た。千部目の写経を果した夕は雨、郎女はものに憑かれたように屋敷を出て、二上山のふもとまで来てしまう。そこは、女人禁制の当麻寺の境内である。

郎女は、この世への執心ゆえにさまよい続けている大津皇子の魂と出逢い、やがて皇子と佛人を重ねて見るようになる。郎女と皇子の魂は互いに惹かれ合い、郎女の一途な心は大津皇子のさまよえる魂を

ナレーション 岸田 今日子

登場人物(声の出演)

藤原南家の郎女(いらつめ)	宮沢 りえ
大津皇子	観世 鎮之丞
大伴家持	榎木 孝明
恵美押勝	江守 徹
當麻(たいま)の語り部の媼(おうな)	黒柳 徹子
身狭乳母(むさのちおも)	新道 乃里子
魂乞(たまごい)をする村人の長老	三谷 昇

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力ください

- ※ソーシャルディスタンスを確保するため、座席数を半数以下にします。そのため、料金を値上げしました。ご了承ください。
- ※上映会に参加の際は、マスク着用、検温、手指消毒にご協力ください。当日、熱、咳、だるさを感じたら来場をお控えください。
- ※ご自身の身近に感染の疑いがある方、過去2週間以内に陽性者と濃厚接触がある方は来場をお控えください。
- ※沖縄県の緊急事態宣言発令中(会場閉館の場合)は映画会は中止です。